

= 海外研修通信 = I'm possible

令和7年3月13日(木)

第 1 号

室蘭清水丘高校

今年で3回目となる令和6年度の海外研修は2025年2月8日(土)～2月14日(金)の期間でアメリカ合衆国ワシントン州シアトルを訪問しました。シアトルは世界でも一流の企業がいくつもあり、天才たちが集う一流の大学があり、気候も北海道と似ているので研修をするには最適な場所です。この研修の目的は、世界の一流に触れることによって、ものの考え方や視線を世界基準にすることです。普通ならば『会えない人に会い』、『行けない場所に行く』。決してお金では買えない経験をする事ができる“特別な研修”です。

2月8日(土) «出発!»

朝、深澤校長先生や多くの保護者の方々に見送られ新千歳空港を出発しました。その後、羽田→成田を経由しシアトルへ向かいました。シアトル到着後は、ドキドキの入国審査も何の問題もなくスムーズに進み、全員が無事に海外研修のスタートを切りました。待合室で3名のコーディネーターさんと出会い、挨拶と今後の予定などを話してくれました。3名とも日本語の理解力がほぼ0%なので、聞くも話すもすべて英語です。3名ともいろんな場面で生徒たちに積極的に話しかけてくれて、よりよい研修にしてくれました。



空港を出発してまず向かったのは、シアトルのシンボルであるスペースニードル。まず大きなフードコートでランチです。みんな初めて英語で注文していました。夕方にスタディーセンターに移動し、コーディネーターの1人であるイザベラさんによるオリエンテーション。アメリカ滞在中やホームステイでの注意事項を話してくれました。終わりごろにホストファミリーが続々と迎えに来てくれて、生徒たちをそれぞれの家庭へと連れて帰りました。ホームステイは一人一家庭です。一人で心細いかもしれないけど、これもいい経験です。

= 生徒の感想 (Day1) =

- ・目に映るものの全部に興奮した。買い物や食べ物の注文がスムーズとは言えないができた。
- ・日本人より親切な国はないと恐れていたが、シアトルの人はみんな親切だった。
- ・アメリカに着いた瞬間にテンションが上がって疲れがふっとんだ!!
- ・ホストファミリーすごく優しい。出会ってすぐハグしてくれた。
- ・子供のバスケの試合を見に行った。本当に盛り上がった。
- ・ホストファミリーが優しく出迎えてくれた。スーパーに行ってたくさん食べ物を買ってくれた。
- ・3名のコーディネーターさんに積極的に話しかけれた。

2月9日(日) «航空博物館訪問(前田氏講演)、ワシントン大学訪問»

【午前】航空博物館(前田さんの講演)

今回の海外研修の目玉の一つである“不可能を可能にした男”前田さんの講演。前田さんは、大学生の時に事故で片目の視力を失いました。日本では片方の視力だけではパイロットになれません。いろんな障害がありながらもアメリカに渡り、パイロットになるという夢を実現させた人です。実体験をそのまま熱く語ることで説得力が半端ないです。高校生へのメッセージも熱く語ってくれるので、毎年多くの生徒が心を揺さぶられています。一度は“体験”してもらいたいプレゼンです。前田さんは現在でも世界の空を飛んでいます。



ボーイング社のあるシアトルには航空関係の博物館がいくつかあります。その中で一番大きいのがこの航空博物館。戦闘機から宇宙へ飛び出したアポロまで、実際に使用されていた航空機が数多く展示されていて、屋外にはコンコルドや大統領専用機“エアフォースワン”も展示されています。飛行機好きにはたまらない場所ですね。

【午後】ワシントン大学(UW) 訪問

アメリカ初代大統領ジョージ・ワシントンにちなんで名づけられた世界でも有数の大学。中でも医学部は世界最強! ノーベル賞受賞者も数多く輩出している天才たちが集う西の名門大学です。UWの学生の案内で構内を見学して回りました。あまりにも広すぎて半日では構内すべてを見て回することはできません。今年はクローズされていた建物もいくつかありましたが、ハリーポッター図書館などを見学した後、大学生への質問コーナーも設けてもらい、生徒たちはいくつも質問をしていて自分たちでいい研修にしていました。

= 生徒の感想 (Day2) =

- ・前田さんのお話を聞いて、未来への可能性が広がられた。
- ・UWの図書館に圧倒された。
- ・ワシントン大学の学生の話しがとても勉強になった。
- ・前田さんのスピーチが心に響いた。
- ・UWの敷地面積や図書館に興奮した。
- ・航空博物館は、エリアごとに雰囲気違って良かった。
- ・UWの図書館がきれいだった。日本人も通っていてびっくりした。
- ・ハリーポッターが好きな私にとっては、とても嬉しい体験でした。
- ・前田さんの話しは、自分の将来の考え方にとても良い影響を与えてくれた。
- ・バスの中でコーディネーターさんとずっとおしゃべりを楽しんだ。意外と自分は英語が話せることがわかった。



= 海外研修通信 = I'm possible

令和7年3月13日(木)

第 2 号

室蘭清水丘高校

2月10日(月) «レドモンド高校訪問»



姉妹校となって初めての訪問。教育水準の高いワシントン州の中でも優秀な高校の1つ。高校生の多くは“自分の車”を運転して登校します(アメリカは16歳で運転免許を取得可能)。生徒用に広い駐車場も用意されています。そんなレドモンド高校で1日お世話になりました。2時間目から5時間目まで毎時間生徒が入れ替わるので、それぞれの時間でまずこちらで準備していったプレゼンを聞いてもらい、その後レドモンドの先生の用意したアクティビティ(グループワーク)行いました。プレゼンは、緊張していたとはいえ、どのグループも堂々たるもので、レドモンドの生徒はみんな楽しそうにしていました。特に2年生男子チームはかなり盛り上げてくれていました。担当のサム・カイパー先生は「毎年室蘭の生徒は積極的だし、いい生徒ばかりですね」と褒めてくれていました。カイパー先生は生徒を引き連れて7月中旬に一週間ほど清水丘高校を訪問してくれることになっています。各時間の授業にはペンパルで交流している生徒もいました。お昼はレドモンドの生徒と(基本的には2人1組で)ランチを取り、中には友達も連れて来て大勢でランチを取った生徒もいたようです。同年代の高校生と授業や休み時間で交流を深めました。

= 生徒の感想 (Day3) =

- ・プレゼンは伝えることが大事だと思った。
- ・いろんな人と話すことが出来た。インスタも交換できたので、これからも連絡を取り合って仲良くしていきたい。
- ・一番緊張していたレドモンド高校は、とても楽しく終えることができた。
- ・一緒にランチを食べた人が日本語が上手すぎて驚いた。
- ・数学はアメリカの授業でも難しかった。
- ・プレゼンはスムーズに行って、楽しんでもらえて良かった。
- ・レドモンド高校では、生徒が積極的に発言する機会が多く、授業はその意見を重視に進めていて、日本との違いだなと思った。



2月11日(火) «デジペン工科大学、ポップカルチャー博物館 (MoPop) »

【午前】デジペン工科大学 訪問

特殊な才能を持つ人たちの集うデジペン工科大学。毎年数々の賞を受賞し“その道”のスペシャリストを輩出しています。卒業後はマイクロソフト、任天堂、アマゾン等シアトルにある世界の大企業だったり、映画製作会社に就職したりしているようです。日本人やアジアからの留学生もいます。英語を勉強しつつ“そちら方面”を目指したい人には最適な大学ですね。担当者の案内で、大学での活動内容や展示されている数多くの受賞作品の説明を受けたり、授業をやっている中を通り抜けたりしながら、校舎内を巡回しました。途中でデジペンの学生が製作したゲームをすることもできました。

【午後】ポップカルチャー博物館 訪問

音楽関係(有名アーティストのギター等の展示や楽器を演奏できるコーナーも!)や、映画で使われたセット(ファンタジーからホラーまで)が展示されている博物館。スペースニードルに隣接し、外観の形状や色使いも独特で観光スポットになっています。3階まであるので、じっくり見ていると時間が足りなくなります。

= 生徒の感想 (Day4) =

- ・デジペンではゲームについて様々なことを聞くことができたうえに、ゲームの体験もさせてもらえてとても楽しかった。
- ・まだ作られている最中のゲームができて、すごい経験をしたなと思った。
- ・Mopop 博物館では色んなテーマの部屋があって、時間が足りないくらい広く楽しめた。
- ・Sound Lab のギターとかできる場所で、みんなとバンドをして楽しかった。
- ・日本の博物館とはスケールが違う。体験型でワクワクした。



2月12日(水) «パイクプレイスマーケット、アマゾン本社、マイクロソフト社»

【午前】パイクプレイスマーケット、アマゾン本社 訪問

まず朝イチでパイクプレイスマーケットへ。スタバの1号店もこのエリアにあるため、お昼くらいからとんでもなく混雑するシアトルNo1の観光スポットです。ショッピングやレストランなどが立ち並び、魚を投げるパフォーマンスを見れたり、ガムウォール(ガムを噛んだ後、壁にピッと貼り付ける)もあります。みんなお土産をたくさん買っていましたね。“カード紛失未遂事件”もありました。

1年男子が必死で探し周ったけど、結局ポケットに入っていたというオチで終了。号泣から楽しい思い出に変わりました。その後、徒歩でアマゾン本社へ。世界中にあるアマゾンの本社です。外観の球体が特徴的。中には入れなかったなので、イザベラさんが会社や建物について解説してくれました。



= 海外研修通信 = I'm possible

令和7年3月13日(木)

第 3 号

室蘭清水丘高校

2月12日(水) 【午後】マイクロソフト社 訪問

3月にドイツに転勤だという担当の方の案内で、初期のころに製作されたPCから最新テクノロジーまでを見学しながら、マイクロソフトの歴史と未来を学びました。その後、ゲストスピーカーとして3名の日本人従業員の方に座談会形式で生徒からの質問に答えてもらいました。世界の一流企業で働く“日本人”の方々に直接出会えて話を聞いたことは、かなりの刺激になったと思います。



= 生徒の感想 (Day5) =

- ・シアトルは街並みがきれいなので、どこでも写真映えする！！
- ・日本では見るできない鮮やかなアメリカの市場を満喫した。
- ・アメリカの市場がどういふ風なものかを知ることができた。マイクロソフトでは最新の技術と海外で働くということの大変さや、今からできることなどたくさんのことを教えてもらった。
- ・マイクロソフトで、意識の違いによって差が生まれるのだということを知った。
- ・マイクロソフトでお話を聞いて、人生どうなるのか本当に分からないと思ったし、コツコツは大事だと思った。スタバの1号店に行けて感動した！！
- ・お話をしてくれた皆様にはとても良い学びをいただいた。



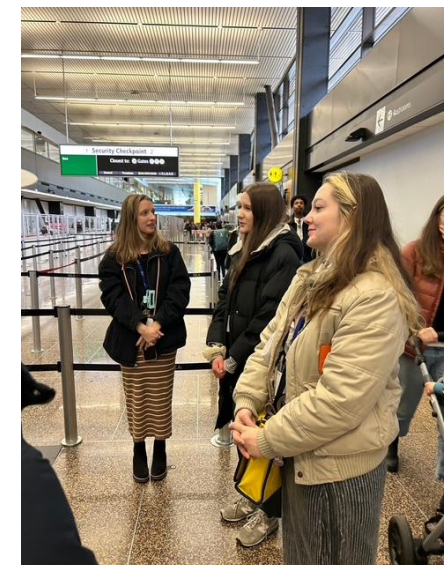
2月13日(木) «最終日!»

例年より気温が低く、普段は雨の日が多いシアトルだけど、毎日晴天でとても研修しやすい日々が続きました。そんな海外研修も帰国の日となりました。ホストファミリーともお別れです。「まだ帰りたくない」という声をたくさん聞きましたが、また数年後ホストファミリーに会って、今度はもっと話ができるように今から頑張りましょう。

飛行機は全て順調で、夜遅く新千歳空港に到着し、海外研修は終了となりました。

= 生徒の感想 (最終日) =

- ・もし誰かにこの経験を伝えるなら「1度日本を出て違う世界を見た方がいいよ」と言いたい。
- ・タコマ空港でご飯を食べて最後までアメリカ生活を楽しむことが出来た。
- ・車の中でホストファミリーと会話をして、帰りたくなかった。シアトルに戻りたい。
- ・とてもお世話になったホストファミリーだったから、とても悲しく感じた。
- ・悲しすぎて泣いた。また会いたい。
- ・シアトル楽しすぎた。また行きたいな～！！
- ・車の中でたくさん話せて、感謝を伝えられて良かった。



«海外研修参加生徒の感想»（研修後の反省・感想文から一部を抜粋したものです）

☆ アメリカの人はみんな積極的で発言もしっかりしている。自分もそのような環境に身を置くことで自分ももっと積極的になれるのではないかと思った。前田さんの話を聞いて、自分から行動を起こすことの大切さを学んだ。レドモンド高校の訪問では、プレゼンの時、自分のパフォーマンスをしっかりと出せて、みんな笑ってくれたので良かった。コーディネーターさんともいっぱい話せて良い経験になった。大学生になったら、長期の留学をしてみたいと思ったし、海外で生活をするのが自分の夢になった。さらに一生懸命に英語を勉強をしようと思う。

Hiroki

☆ 私が海外研修に行って得たものは、言葉の通じない相手とコミュニケーションをとる力です。あまり話せないまま終わってしまうのではないかと思っていましたが、いざアメリカに着くと自分の中の『絶対しゃべろう！』という決意が生まれ、未熟ではあるもののジェスチャー等を駆使して様々な人とコミュニケーションをとることができました。肝心なのは心が通じ合うこと。ここを意識しながら接する・しないで、達成感が違っただろうなと感じます。アメリカの雰囲気も味わいました。レトロなバスからの眺める情景、明るくきさくなコーディネーターやホストファミリー。室蘭にいては経験できるはずのないすばらしく自由な雰囲気を終始感じていました。レドモンド高校では、違う世界に住む近い年齢の仲間たちに会うことが出来ました。高校生の普段考えていることや、笑いの沸点は世界中変わらないのだと分かり、安心しました。皆でサンドイッチを食べながら、自分の視野は行く前よりとてつもなく広がっていることに気づきました。

Harunobu

☆ 初めての海外で緊張していたが、多くのコミュニケーションをとることでほぐれていった。バスでの移動中から外の景色すべてが新鮮だった。ホストファミリーとの対面で、最初は緊張したが、色々質問することで打ち解けることができた。前田さんの話を聞き、学ぶことがとても多く、聞いたかった質問もできたので勉強になった。ワシントン大学では、英語の説明も何とか理解した。何よりも図書館のスケールが日本と違いすぎて驚いた。ポップカルチャー博物館では、楽しみにしていたニルバーナのエリアや楽器を演奏するエリアを満喫することができた。パイクプレイスでは、スタバの1号店で家族に頼まれたマグカップを買うことができた。買い物を満喫した。行きの飛行機から帰りの飛行機までずっと楽しく新鮮な研修だった。改めて今回の研修に参加させてもらったことに感謝したい。

Sora

☆ 今回が人生初の海外でしたが、文化の違いを肌で感じてみるのはとても貴重な体験でした。食事やマナーの違いから宗教観まで、日本にいては知ることのできない価値観を学びました。この海外研修以外では得られないような経験が、今後の人生の物事を考える上で大きなヒントをもたらしてくれました。特に、前田さんの話やマイクロソフトでの座談会は、普通ではできないような貴重な時間で、多くの学びや考え方などを知ることができました。今まで知らなかった人生の成功者のような方々の考え方に触れることができたのは、これからの人生に大きく役立つと確信しています。とても楽しくすばらしい研修でした。この研修に参加してみて、思わぬ人たちと仲を深められ、また、アメリカに友達もできました。この研修に参加できてとても良かったです。

Shu

☆ 海外研修は、何か新しい発見や自分の刺激になることを求めて参加を決めました。アメリカ初日にホストファミリーと出会い、まずスーパーに行きました。全ての商品に興味がありすぎて好きなものをたくさん買ってくれました。前田さんの話しは、信じられないくらいすごい事すぎて、あきらめないで夢を叶えたことがかっこ良かったです。レドモンド高校では、プレゼンをしました。クイズに参加してくれて嬉しかった。ランチのペアの子が、学校の中の紹介やプログラミングの授業のことなど細かく説明してくれました。パイクプレイスでは、スタバの1号店に行けて嬉しかったです。ホストファミリーには自分の悩みなどを聞いてもらってアドバイスをたくさんもらいました。アメリカの人は皆フレンドリーで愛情表現も豊かで毎日楽しそうだったから、私ももっと楽に過ごしてみようと思いました。今回が初めての海外で、街並みや人々など日本と異なることばかりで、毎日が夢みたいであつと言う間でした。この経験ができてるのは当たり前ではないから、親に感謝したいのと、海外研修に行くか迷っている人がいるなら絶対に行くべきとお勧めしたいです。

Yuika

☆ 海外研修で、特に印象に残っているのは前田さんのプレゼンです。前田さんの人生の話しはとても壮大で、自分の抱えている悩みなんてすごくちっぽけに思えました。「無事に日本に帰国したらまず親に感謝をしよう」という言葉も印象的でした。物価高のアメリカに行くことを許してくれたことがどれだけ恵まれているのかははっきり分かりました。マイクロソフトの方々のお話を聞いたこともありがたかったです。どうしたら英語が上達するするのか、たくさんのコツを教えていただき、英語を学ぶ意欲が増しました。そしてホストファミリーとの出会いが何より素敵な経験となりました。何から何まで良くしてくれる寛大さに何度も感動しました。実際に接してみないとわからない文化の違いを肌で感じる事ができました。後悔しているのは私の英語力がまだまだな所です。英語がもっと話せれば、ホストファミリーとの時間も有意義なものになったと思います。海外研修は、確かに費用は高いですが、それ以上の価値があると言い切れます。もし迷っている人がいるなら、必ず行って欲しいと心から思います。

Rira

☆ 今回の研修には、去年海外研修に参加した人の話しなどを聞いて興味を持ち、いろんな話を聞いていくたびに行きたいという気持ちが強くなり、参加を決めました。行きの飛行機では、よくわからない時間に機内食が来るたび「これ何ごはん？」と思いながらもすっかり全て完食！！でも長い機内の時間は、あまりしっかり寝られなくて、到着してからちゃんと行動できるか不安だったけれど、シアトルに着いた時はこれから5日間が楽しみすぎて眠れなかった不安が一瞬で吹き飛びました。空港で3人のコーディネーターさんに会って、全て英語で話していたので一気に着いたという実感がわいてとてもワクワクしました！！この研修で印象に残っているのは、レドモンド高校です。毎休み時間、廊下を見るとお祭りのような人の多さで衝撃的でした。日本語クラスの生徒との授業では、伝わらない日本語を英語で伝えるのが難しかったです。ホストファミリーとの時間は今までの人生の中で一番と言えるくらいとても楽しかったです。最初はすごく緊張していたけれど、いつの間にか楽しさで緊張を忘れていて、最後の日にはサーカスに連れて行ってもらえて、一生心に残る思い出になりました。今回の研修に参加させてくれた親に感謝して、この経験をこれから活かせるように頑張ります。

Mitsuki

☆ 海外研修に行くことを『行ってみたい!』で決めたものの、ちゃんと話せるのか不安だったけど、毎日ホストファミリーと話していると会話もはずむようになりました。ホストファミリーが一番心配だったのに、家族で話したり、ドライブやパーティ、ボーリングに行ったり食事に行ったり、楽しい思い出しかなくて、毎日家に帰るのが楽しみになってたし、お別れの時、5日間だけなのにこんなに悲しいんだなと思いました。前田さんの話しはすごすぎて、かっこいいなと思いました。自分もどんなことがあっても夢をあきらめないで頑張ろうと思いました。ワシントン大学では、学校のことも関係ないことも質問できて良かったです。レドモンド高校では、プレゼンは少し手間取ったけどうまくいきました。ランチはペアの子と過ごせてとても楽しかったです。この研修を通して、日常的に英語を話すことや、ホストファミリーに積極的に話しかけることで会話力も身に付いたと思います。将来はまだ決まっていけないけれど、この経験をいかして考えていきたいと思いました。 Aisha

☆ ホームステイで、初めはうまく聞き取れなかったり話を広げる質問や返事が思うようにいかずに落ち込むこともあったけど、段々と慣れていって話す時は緊張することなく会話を続けることができるようになった。マイクロソフトの社員さんのお話で、「初めは10あるうち、2か3しか出せないもの。今ある力を10出せる状態に近づけていくことが大事」というのを聞いて、その時にらせる1番の力をもって頑張ることが大切なんだなと思えた。前田さんのお話しには深く感銘を受け、海外研修に行かせてくれた親に感謝しなくてはと思えた。ホストマザーには毎日声をかけてもらい、その優しさに触れて嬉しくなった。今後の目標は、シアトルに行ったことを活かして、いろんなことを頑張って取り組んでいきたい。 Momo

☆ 人生で2度目の海外研修だったので、前回のリベンジの気持ちで参加しました。シアトルに着いて、不安だった入国審査で「楽しんでね」と言われてとても嬉しかったです。イザベラ・サラ・リリーに会って、おしゃべりしながらバスに向かう時間がすごく楽しかったです。3人とも明るいので元気をもらいました。ホストファミリーに初めて会った時、とても優しい人で安心しました。前田さんのお話は、とても熱くて心に響きました。レドモンド高校では、毎回違う子と話せて楽しかったです。お昼はバディの子を含め、大人数でランチを楽しみました。最終日の前日の夜は、悲しくて寝たくないとずっと思っていました。一週間とても優しく接してくれた家族と別れるのはとても悲しかったです。またアメリカに会いに行きたいです。 Hinata

☆ 最初は何となく行ってみたいなと思った研修でした。いろいろ話を聞いているうちに『行ってみたい!』と思い両親に相談したらOKしてくれて参加できるようになりました。両親には感謝でいっぱいです。実際にシアトルに行ったら、心配だった英語もなんとか頑張って話したら案外話せて楽しむことができました。マイクロソフトで、「将来使わないだろうという勉強は必要だと思いますか?」という質問に、社員さんが「将来使わない勉強が大切かどうかではなく、それをどう学ぶか、勉強方法を知ることが大切」というのを聞いて、深く納得しました。海外研修は新しい文化や価値観に触れる貴重な経験でした。授業で自分の意思を伝える力が身に付いたり、ホストファミリーとの食事中的会話も毎日の楽しみで、英語のスキル向上にも大いに役立ちました。異文化に適應する力や積極性を身に付けることもできました。この経験を、今後の学びや将来のキャリアに活かしていきたいと思います。 Neiro

☆ 説明会を聞くまでほとんど海外に興味がなかったけど、実際に行ってみて大正解だった。ただ楽しかっただけではなく、色んな面で成長できた。リスニングやコミュニケーション能力は向上した。積極性や自己判断能力など、人間性という面での能力も身に付いた。ホストファミリーやコーディネーター、現地の人や友人とも仲良くなることが出来て楽しむことができた。レドモンド高校の生徒は、積極的に手を挙げて質問していた。リラックスできる空間があるからこそ授業を聞けて質問もしやすい空間なのだと思う。ホストファミリーは家族全員が自分に優しく、何も不自由ない生活を送ることができた。子供のアキオとは每晚チェスをやった。お別れの時は「また会おう」ではなく「またチェスで勝負しよう」というユニークな言葉で印象に残った。将来は大学や就職も海外まで視野を広げようと思う。 Hayato

☆ 何か自分のしたいことや経験を積むことができたらいいな〜くらいの気持ちで参加したが、いざアメリカという国で生活してみると、日本との違いに驚かされたり、感動の連続だった。ホストファミリーと初めて話した時は、思っていたよりも簡単な表現で話すことが出来るし、ゆっくり話してくれるので緊張はすぐ解けた。前田さんの話を聞いて、自分と比べ物にならないくらいような挫折をしたのに、夢を実現させたことにとても感動した。レドモンド高校では、一番心配だったプレゼンは、聞いてもらってる時に笑ってくれたり、今まで一番よい発表をすることができた。パイクブレイスやマイクロソフトでは、現地でしか味わえないとても貴重な体験だった。この海外研修は、これから先どんな場面でも役に立つような、とても貴重な経験だったと思う。 Toya

☆ シアトルに着いてから、オリエンテーションでホームステイの説明を聞いている時は、ここ数年で一番緊張していました。実際にホストファミリーと出会ってから、最初はぎこちなくてこの後どうなっていくのか不安でいっぱいだったけれど、日を重ねるうちにホームステイにも慣れて最終日にはとても楽しくホームステイを終わりました。最初の思い出は、みんなでハンバーガーを注文する時でした。自分の英語でちゃんと伝わるか不安でしたが、定員さんが想像以上に優しくてうまく注文できました。前田さんのプレゼンは、泣きそうになりながら聞いていました。自分も前田さんを見習って、自信を持ち、何でも諦めずに挑戦していこうと思いました。レドモンド高校では、自分の下手な英語でも楽しく会話してくれて、いい思い出になりました。今後の目標は、日々の積み重ねが学力向上につながるの、しっかりやっいていこうと思います。 Hiromu

☆ 当初は、きっとあっという間の旅になるんだろうなと思っていましたが、長く充実した研修になりました。世界の一流に触れる旅は、文字通り経験したことのないような旅で、これからの生活でも経験できないと思います。ホームステイに関しては抵抗感がありましたが、実際は新しい発見がいっぱいで時間が長く感じられました(ジャンーの法則では、新しい体験をするとは新鮮な出会いや発見で時間を長く感じます)。そのためこの研修は色々長く感じました。今回の研修では、一生かかってもできないくらいの経験ができ、一歩歩くたびに新しい出会いがあり、費用以上の研修となったので参加できてよかったなと思っています。2年生では積極的に新しいことにチャレンジしたいと思うようになりました。 Koshiro